



第17号
2020年3月1日発行

親鸞聖人御誕生八百五十年・
立教開宗八百年に向けて



新潟教区教務所長
岩佐善静

昨年より、二〇二三（令和五）年に勤まります「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の推進体制が本格的に始動いたしました。この法要の「趣意書」には「親鸞聖人の説き示していただくさった浄土真宗のみ教えに出遇うことがなければ、今の私はありません。出遇ったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人の

ご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する」ご法要であると述べられています。

親鸞聖人がみ教えを説かれて以来、八百年にわたる歴史の中で、多くの方々が、浄土真宗のみ教えを生きる依りどころとされてきたことは、お念仏のみ教えがいつの時代においても人々の生きる支えとなったからでありましょう。

私たちは、阿弥陀如来のおはたらきを聴かせていただくことで、この世界のありのままの真実を知ると同時に、自分自身の思いにとらわれ、この真実に基づいて生きることで、自己中心の私に姿に気づかされ、様々なご縁の中で、生かされている私であることを知らされました。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の救いに出遇えたことを喜び、『教行信証』の最後に、『安楽集』から次の言葉を引用されています。

「前（さき）に生まれんものは、後（あと）のものを導き、後に生まれんものは、前のものあとを尋ね、果てしなくつらなつて、途切れることのないようにしたい。」と、み教えを伝えてくださった、先人への感謝と共に、自らも途切れることなく、み教えを人々に伝えていこうとする、親鸞聖人の決意をうかがうことができます。

過去から現在へと多くの苦難の中で、み教えを伝えてくださった方々のご縁の積み重ねによつて、今、私たちが阿弥陀如来の教えに出遇うことができているのです。

さて、浄土真宗は、聴聞に極まるといわれます。「聞法」とは、阿弥陀如来が私たちを救おうとして願ひ（本願）をおこされたのかをたずね、阿弥陀如来が、今私たちが救おうとはたらきつづけておられることを受け入れることです。

聖人は『教行信証』に「聞思（もんし）として遅慮（ちりよ）することなかれ」とお示しくださいました。「聞思」とは、ただ聞くということだけでなく、人生の依りどころを明らかにする確かな言葉をとおして、自らの問題として、教えを受け止めていくということです。

しかし、私たちは、自分にとって好ま

しい声には耳を傾けたり、自分の言動を正しいと思い込み、自己中心の考え方で物事を見てしまい、真実とは何かが分からなくなってしまう。このような自己中心にとらわれる姿を「遅慮」と言います。

そもそも、阿弥陀仏の教えとは、私たちの経験や判断を超えた世界を説くものです。だからこそ、それまでの自分の生き方や考え方を少なからず方向転換させられます。

聖人は、門弟に宛てたお手紙で、「(あなた方は)今、すべての人々を救おうという阿弥陀如来のご本願をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり、いかり、おろかさという三つの毒も少しずつこのまぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とご教示くださいました。

私たち念仏者は、これからもいよいよ聞法に心がけ、来たるこの度のご法要に向けて「御同朋の社会をめざす」運動を推進し精進してゆきたいと思えます。

本年は、当教区においてもこの法要にかかる教区法要事務所を設置し、法要円成に取り組んでいきます。門徒推進員の皆様にもご協力いただき、共にご法要のご勝縁をお迎えいたしましょう。

本願寺参詣と紅葉の京都の旅



与板組 隆泉寺
佐藤秀利(釋求法)
中央教修 一七一回

十一月二十七日より二十九日までの二泊三日で「ご本山参詣と紅葉の旅」を常禅寺様と隆泉寺様の二年に一回の企画旅行に行つてまいりました。初めての方、複数回の方、総勢三十一名の参加でした。一日目は大谷本廟から宿の聞法会館でした。大谷本廟では数名の方々がご縁を結ばれ、私達もご一緒に参拝させて頂き、私も今回父母と会う事を得ました。夕食後は、各々有名寺院等の紅葉ライトアップの見学に行き、私達は灯台を模した京都タワーに登り、頂上回廊より見る市内は、最上級なものでした。次は三代將軍徳川家光より土地の寄進を受け作られた東本願寺飛び地境内の涉成園を拝観、京都駅に近いにも関わらず、とても静かであり、池に映るその様は、実に美しくみごとであり、園風亭からは雅楽音が耳に届き、心静かなひと時を過ごすことができました。

二十八日はお晨朝にあい、書院飛雲閣

を見学し朝食の後東本願寺御正忌報恩講への参拝です。私達が着いた時はすでに本堂は満堂となっており、後方での参拝となりました。本堂内には、私達と同じ式章を付けておられる方々を見受けられる事が出来、東西を問わない参拝が行われていました。

坂東曲は結願日中(御満座)での念仏讃で三回おこなわれました。高僧和讃六首を唱えます。調声は大きく度肝を抜かれました。身体を力強く前後左右に大きく動かし、勤まる大変にダイナミックな声明でありました。その声明は、大波が寄せては返す姿であり、報恩への大きな気持ちの現れかと思えました。本堂を包み込む大きな大きな波姿でした。

その後は、詩仏堂、みかえり阿弥陀仏のおられる永観堂禅林寺、ここでは雨に濡れた紅葉がひときわ見事でした。青蓮院、三井寺、石山寺と参拝をさせていただき、石山寺では、阿弥陀仏、親鸞聖人、蓮如上人を拝礼することができました。京都では紅葉の素晴らしい時節にあり、事が出来、坂東曲にはその力強さに驚きがあり、それが報恩への力強さと思えました。又、それぞれの時所において不可思議に出会う巡礼の旅でした。

出会いと別れ



与板組 明元寺
諸橋ミツイ(釋慈清)
中央教修 二〇四回

私が連研を受け門推となって、やがて十年位になります。この間に多くの楽しい出逢いがあり別れもありました。最初は連研に出席した時、とても居ずまいの素敵な女性の方をお見受けして、私もあのようになりたいたいと思ひ連研を楽しく過ごす事が出来ました。それから中央教修で良き仲間も出来、お寺のお手伝いや研修会と出席させて頂き、皆さんとお逢いする事は楽しみですが、いざみ教えだの仏教の話しになると分かったような分からないような・・・。

藤田徹文先生が「今の人達は頭で聞いているから解らないので『身で聴く』事が大事」と教えて頂き一安心。出来るだけ聴聞したいと思っていました。そんな中、主人が病気のため一年でお浄土へ行ってしまいました。何だか心の支えが無くなり先行きとても不安でしたが、お寺仲間の人達と逢う事や、北海道のチーム

「いちばん星」の歌声や三浦明利さんに出逢った事等が、とても心の支えになり有難かったです。

他教区までは行けないので、せめて新潟別院が会場の時にと思ひ、昨年七月「第一連区門徒推進員実践運動研修会」に出席。その時茨木から出席の方が、私の知っている方のお友達と知人です。：という不思議な出逢いがあり感激しました。今年九月には「第一連区仏教壮年大会」もあり出席させて頂き、三浦明利さんにもお逢いして御礼を申しあげ、北海道の人達にも御礼の言葉を伝えられました。

主人の死から五年過ぎて漸く素直に受け止め、向き合える様な不思議な心境の変化を感じている今日この頃です。毎朝お明しをあげる時目にする『しぬでござらぬ、かえるでござる』大好きな法語です。自力で足を運べるのももう少しかも知れませんが、出来るだけ聴聞し素直にお念仏が唱えられる様に、そしてお念仏の相続が出来る様にと思っています。

それまで、皆さんよろしく！ 合 掌



「出会い・出逢い」と

「開発(かいほつ)・発揮」について



長岡組 西楽寺
春日正利(釋利正)
中央教修二四七回

日頃は、体力回復途上のため門徒推進員の活動を欠席しがちで誠に申し訳なく思っております。

門推の活動報告の代わりに、常例法座などでご法話をお聞きしているとき、自分がいつも感じる言葉である「出会い・出逢い」と「開発・発揮」について、お話しさせていただきます。「出会い、出逢い」については、多くの方がお話されています。(以下、人、書物、環境や場面にも通じる遇の字の「出逢い」を使わせていただきます。)
「出逢うことは仕合せであり、自分の心のあり方に応じてよい出逢いが生まれる。」などという言葉に、いつも励まされています。

自分は今まで、多くの出逢いに恵まれて、誠にありがたいと感じています。これらに出遇えなかった人生など、全く考

えられず、本当に尊いことであつたと言わざるを得ません。これからも大切にしていきたいと思っております。

もうひとつの「開発・發揮」については、開発はもともとは仏教用語で、「開発」とは、生きとし生けるものが本来持っている仏性を開いて發揮させることである。また本来新たな気づきを得る行為が開発であり、実際に体験してはじめて分かることがある。」と言われていました。特に後段の言葉は、出遇って、体験してはじめて気づかせてもらおうということで、職業生活でも常に実感しておりました。出遇って気づいて分かって初めて、自分も、そして行いの対象の事柄も、本来のあるべき姿、特性を發揮できるということで、大切にすべき見方だと思っております。

新潟別院 银杏の木



合掌

世界仏教婦人大会に参加して



元上組 託念寺
堀井美子(釋心清)
中央教修一三回

八月三十日から九月五日の日程で、サンフランシスコ大会に主人と参加させていただきました。新潟教区からは七名の参加でした。

開会式にはご門主様がご臨席され、アメリカ、カナダ、ハワイそして日本からの六百名を含めて千七百名が会場を埋め尽くし讃仏偈を唱和しました。

「お念仏に生かされて」をテーマに基調講演と講座、夕食懇親会では、十人一人テールでプレゼント交換や記念写真を撮ったりしてとても楽しいひと時を過ごしました。翌日閉会式の後、懇親会でお隣になった方がお土産を下さり、四年後日本での世界大会では是非再会しましょうとハグしました。とても温かい気持ちになりました。

ロサンゼルス本願寺別院参拝では当地のご門徒さんによるご接待を受けました。自ら釣ってさばいたマグロの刺身と刺身のつま、わさび、それに白いご飯

まで出てきて、まるで日本に居るようでした。日系の方々には私達よりも日本人らしく、伝統を重んじておられ、おもてなしの精神が脈打っていました。

また、全米日系人博物館を訪れ、日系移民の方々、厳しい人種差別や真珠湾攻撃後の強制収容にも耐え抜いてこられた根底に、心の拠り所として親鸞聖人のみ教えがあつたのだと確信いたしました。

今回の旅行を通して、「浄土真宗の生活信条」の一節が浮かびました。「み仏の光をおおぎ常にわが身をかえりみて感謝のうちに励みます」生かされていることに気づき、すべて当り前ではなく、有難うの心を持ちながら生かさせて頂こうと思えました。とても有意義な旅行となりました。

合掌

米国サンフランシスコ市 大会会場にて



三教区門徒推進員研修会に参加して



元上組 明鏡寺
若月トシ(釋是証)
中央教修一八二回

昨年十二月五日・六日の二日間の日程で、長野教区担当のもと、『三教区門徒推進員研修会』が湯田中渋温泉「ホテル水明館」で開催されました。今回は、長野教区実践運動研修会(門徒総代会、門徒推進員、ビハーク長野)との併催で行われ、参加者は百六名でした。その内、門徒推進員は長野教区二十七名、国府教区九名、新潟教区八名で合計四十四名でした。

講師は、本願寺派布教使・連研中央講師の井上慶永先生(新潟教区 巻組 妙光寺住職)で、テーマは「御同朋の社会をめざして『お浄土からの問いかけ』」(仏弟子としての名のり)と題しての講義・問題提起がありました。話し合い法座では門徒推進員のみの方座とは少し違う雰囲気ではありましたが、他の方の考えや思いを聞かせて頂く機会に恵まれて、有意義に思いました。講義では、お浄土は亡くなった後で、

今の私に関係ない世界ではなく、環境問題、社会問題など困難な課題の多い今を生きている私に寄り添い、支え、働きかけて下さっていて、お浄土から今私が何を問いかけられているのか、一人ひとりがお浄土からの問いかけに、向き合う一念仏の日暮らしを心掛けていくことが、大切と聞かせていただきました。

各教区代表による活動報告では、教区それぞれに特色ある活動についての発表があり、新潟教区は会長の堀井善治さんが発表されました。

次期担当教区は国府教区であり、会長より「親鸞聖人ゆかりの地での開催となるため、国府教区門徒推進員の数は八十数名で少ないですが、心を込めて力を合わせて精一杯準備しますので、多数の門徒推進員のご参加をお願いしたい」と挨拶がありました。県内での開催となりまので、共に声を掛け合



って出来るだけ多くの方々と参加したいものです。合掌

三教区門徒推進員研修会 開 会 式



中央教修に参加して



三条組 福勝寺
平原寿子(釋順実)
中央教修二六六回

五月に中央教修に行ってきました。沢山の方がいました。そこで、色々な人と話をしました。食事の時はお寺の人と多くの話しが出来、門徒推進員の皆様には色々お世話になり、みんな一緒に話し合い法座で語り、お聴きしてきました。

仏さまに願われて、スタッフの人に送られて、終わりになりました。本当に行つて良かったと思えました。

合掌



世界仏教婦人大会への旅



三条組 福勝寺
沼前栄子（釋祥栄）
中央教修二一五回

昨年八月、大きな期待を抱えながらのアメリカ一週間の旅を経験しました。新潟教区から七名、国府、長野、東北教区の方々と総勢二六名での団体となり、成田空港で全員そろい自己紹介の後細かい手続きの説明を受け、旅がスタートしました。飛行時間は十時間で『世界一美しい街』サンフランシスコに到着。昼食をとり、ゴールデンゲートブリッジへ：海にかかるとても大きく美しい橋でした。ここは、夏でも涼しく一年中過ぎしやすい霧の街だそうです。次に予定していたツインピークスは、名物の霧の

中に隠れてしまい、山頂からの素晴らしい景色は残念ながら見る事ができず、無常にもバスはホテルへと向かいました。

いよいよ大会の始まり！大きなホールに一七〇〇名（日本から六〇〇名）が集まり、「お念仏に生かされて」をテーマにご門主様を迎え、讃仏偈をお勤めしました。阿弥陀様のもとに、心がひとつになったような素晴らしい時でした。午後からはワークショップ二講座に参加し、とても有意義なお話を聞かせて頂きました。

夕食の懇親会は、ギフト交換をし、余興のダンス・コーラス等を楽しみながらの食事でした。英語が全くダメな私に、話せる日本語を駆使し、話しかけてくださった皆様に感謝です。

二日目は、重誓偈をお勤めし、各地区代表による体験発表を笑ったり目頭があつくなったりしながら、聞かせて頂きました。最後に恩徳讃を斉唱し、二日間の大会はアツという間に終わってしまいました。

大会後、ロサンゼルスへの移動のため空港へ。四日目は市内観光で、ハリウッド、ビバリーヒルズ、サンタモニカ海岸

と回り楽しみました。ロサンゼルスは、日本と同じくらい暑かったです。

翌朝、ホテルから徒歩で

ロサンゼルス別院を訪問しました。大きく立派な別院にびっくりしました。多くのご門徒さんが迎えてくださり、参拝後グループ別になり別院内部を見学させて頂きました。その後お茶の接待を受けながらご門徒さん達との話が盛り上がり、日程が変更になるくらい滞在時間が延びてしまいました。心がとても満たされた思い出深い時となりました。

最後の日、いよいよ帰国です。行きより機内が空いたせいか、ひと眠りしたらもう成田空港でした。この大会に思い切つて参加して、本当に良かったです。同行の皆様、色々有難うございました。浄土真宗に出会えたおかげで、この旅を経験できましたことに心より感謝です。



ビバリーヒルズ (Beverly Hills)にて

合掌

今からでも遅くない



地蔵堂 浄専寺
伊藤スミ(釋慈照)
中央教修一一六回

今は、欲しい物が何でも努力すれば手に入れる事が出来る豊かな社会になったが、その陰には孤独や不安、人と人のつながりが希薄になり、心の豊かさが無くなってきました。

このような時に心の支えになればと思いい、お寺の行事に参加するようになり、お聴聞を重ねているうちに、連研がある事を知り参加し、法座活動の中で人は様々な経験をして悩んでいるんだと思いました。

誰も幸せと思う事、不幸せと思う事を体験してきたと思います。それは私に煩惱があるからだと思付かせてもらいました。人は死を迎えるまで、四苦八苦で生きていかねばなりません。でも、そこに阿弥陀さまの側から、いつでも私の傍らにいて下さっているのだと思付かせてもらっています。誰もが今からでも遅くはありません。寺の行事や研修に一步

進んで参加し、何か一つでも覚えて自分の心の糧にしたいです。お聴聞のたびに私の身勝手な自己中心的な考え方に、少しは気付くようになり生き方が変わりました。

みんな苦悩を抱えて生きている中で、私の心の拠り所として浄土真宗のみ教えに出あい、多くの寺友と仲間になった事に感謝しています。阿弥陀さま、ご先祖さまを身近に感じ、常に私を見守っていて下さるのだと思える日々であります。

合掌

仏教婦人会に思うこと



地蔵堂組 勝敬寺
永塚陽子(釋慧光)
中央教修一一六回

令和元年五月三十日、新潟別院で仏教婦人会連盟研修総会が開催され、百六名の参加者でした。御講師に、三宮亨信先生をお迎え致し、テーマは「新たな仏教婦人会綱領に学ぶ」でした。皆様にも内

容が新しく変わった事を知って頂きたいと思いい、ここにご紹介致します。

『私たちは親鸞聖人の、み教えに導かれて、すべての人びとの幸せを願われる、阿弥陀如来のお心をいただき、自他ともに、心豊かに生きることのできる社会をめざしともに歩みを進めます。』

- 一、お聴聞を大切にいたします。
- 一、南無阿弥陀仏の輪をひろげます。
- 一、み仏の願いにかなう生き方をめざします。』

今回の仏教婦人会連盟研修総会には、勝敬寺様の坊守様から「車いすを用意しますから、一緒に行きましょう」と誘われました。本堂に入ると「永塚さん、久し振りだねー」「来られて良かったねー」と友達に囲まれ握手攻めにありました。とても嬉しかったです。身体の事など何一つ聞かずに、笑顔で迎えてくれた友達の思



想が、笑顔で迎えてくれた友達の思

いやりと、坊守様の気配りで、無事に閉会式まで出席する事ができました。

今の私の状態では、門徒推進員としての活動もできないと嘆いておりました。でも、この日皆さんの温かい気持ちに触れて、心から気付かされた事がありました。それは、「今、自分ができる事をやればいいのだ」という事です。そして「少しづつでいいのだよ」と自分に言い聞かせました。

今日の事に感謝して、本堂の阿弥陀様に手をあわせました。

合掌

平成を偲び共にご縁と出会う



新潟組 真称寺
村山誠一（釋建法）
中央教修一九二回

平成の三十年を偲ぶには、多くのご縁と出会いがあつて、「私の辛い時」を超えた心の拠り所となつておりました。振り返れば、転勤先から帰り暫くして父親を病で亡くし、十四年後にはまた母親と連れ合いとを病で亡くしてしま

ました。もう、十四年が経過しようとしております。

この平成の時代はご縁と出会いが多かったです。一つには現役を定年退職や息子達の結婚や孫達の誕生やらと過ぎ去つてきました。二つには病で亡くした各故人との別れに伴う悔やみ「寄り添う絆」が欠けていたこと、人生最大の悲しみでした。毎日が苦痛の日々を送つてしましたが、お寺との関わり「出会い」が多くなり、お寺で行われている諸行事などに参拝させてもらつていけるうち、気分がほぐれ乗り越える事が出来ました。

このご縁がもとで「親鸞聖人のみ教え」に出会い、「連研」を通し「同朋門徒」の仲間と共にお念仏を喜び共に感謝すること、救つていただいた喜び、命の尊さに目覚め、癒されてきたこと、毎日が報恩の喜びの念仏であり唱える日々を得られたことです。

もしも、このご縁と出会うことがなかったら、三十年余り悔みながら暮らしてきたのではないか？今、門徒推進員として仏法に触れ、信心の喜びと同朋門徒の皆さんと共に念仏者とし自他共に心豊かに生き、感謝の人生を送ることが、平成を偲んだ新しい時代の第一歩にな

るのではないかと振り返つてこの頃です。

生活信条「御仏の誓い」

「御仏の光り」「御仏の教え」

「御仏の恵み」を心掛けて

生活をしていきたいものです。

合掌



大慈悲の中で



巻組 教願寺
養田太一郎（釋辰養）
中央教修二六四回

破れ法衣網代笠のお坊さんに、シヨウジョウナントカにいれてやったのにと

杖を振りかざして追いかけられた夢を見た。気が付くと、ここは京の都の本山聞法会館五〇一号室、草木も眠る丑三つ時、四人宿泊、床の間の掛け軸はご門主直筆の安穩、そういえば、昨夜は中央教修の決意表明式で、二十四名が安穩殿三階で受式したのだ。漆黒の闇の中の待座、私語禁止、音をたててはいけない。お内陣にかすかな薄明かりに光を放つ尊像、気高さに圧倒され向き合って決意を述べるなど、コンプレックスに陥る。清らかな浄土におわす如来と煩惱に悶え悩む凡夫の我が身に消えいりそうである。講師スタッフも右手脇に厳肅な面持ちで着座されている。

勤行は御正信偈。最初は満堂に響いた読経も、受式者席からの声もやがてか細くなり、スタッフ席の音声が大きくなった。自分に至っては二節まではどうにか出来るが、あとは聖典頼みの取り組みしかしてこなかったことがこの場で明らかに悔やまれるばかり。

勤行が終わるといよいよ決意表明だ。作法は立って焼香。焼香卓一步手前で立ち止まり一揖、焼香卓に進む、焼香、合掌念仏礼拝、合掌したまま決意表明、法名を名乗る、合掌をほどこき一步下がりが一揖する、退席。焼香は家での法要、お通

夜、葬式で十分やってきたはずが、改めて練習すると失敗ばかり、順序が逆になったり、足がもつれたり、また、決意の文言もあらかじめ用意したものをまともに完璧にしやべれない。暗記力も衰えているので、長文は避けよう。作法は、名簿順でいけば十五番目くらいだから、前の人をお手本にして、表明文を覚えやすい文にまとめる。私は、「お法りを大切にし、日々精進します」とした。和歌ではないけれど、三十一文字だ。法名は、内願なので間違えなくて済む。

緊張感の張り詰める中で北海道から順番に始まった。作法が拙かった者、決意表明を絶句・とちったり、法名を忘れてたりとミスは誰にでもある。緊張は徐々にほぐれてきた。だめもとで臨んだのであったが、作法通りお念仏決意も大きな声で表明出来た。戦略成功、我ながら出来るものと慢心の気持ちであったのだろう。

翌日の班別法座に昨夜の夢を披露するといふ夢を見ましたね、聖人様じゃないのとか、講師からは正定聚ではないかと解説していただいた。お法りの何たるかもしらずして、出来もしない精進など並べたて得意がっている私に大喝を与えられたのだ。せっかく信心の念仏者に

してやったのに、まだ煩惱と迷いの中にいる凡夫に悲嘆されたのだろう。この上は正定聚に入れてもらえるよう努めます。解ったかというように金剛杖をトンとついて綱代笠は去っていかれた。二人と思わば三人と思え、一人と思わば二人と思え、その一人は親鸞ぞ

南無阿弥陀仏

念仏者の生き方と社会問題



巻組 長光寺
梨本重雄（釋重願）
中央教修一九七回

十月三十一日開催の、教区門徒総代会研修会の報告です。

★講師問題提起

一、最近は自然災害で想像を超えた出来事が起きている。阪神淡路大震災、東日本大震災です。宗教者は被災地に入って心のケアを行っているが、それを超えて寺院・宗教団体に対する期待が増えている。念仏者・宗門に対する見方が変わってきているのだろうか。

二、貧困問題で外部からの期待が出てい
る。新しいことをやるのもよいが、継
続していく事が大事と思う。二十年前
のリーマンショックに端を発した年
越し派遣村のころの貧困は、当時多く
の人に気付かれていなかったと思う。
社会は声を聞かされていなかった。見
ない事は気付かない事につながる。自
己中心性の眼差しをすてよう。
という問題提起を受け、「実践」のため
の問いとして、「これだけは大事にした
い・見過ごせない」ことについて話し合
いがされました。

- ★各人の「これだけは大事にしたい」
- ① 門徒推進員になった時の決意表明
「伝道と聴聞に頑張ります」
- ② み教えを大事に「仏壇を大事にし寺
の手伝い」
- ③ 決意表明での「お教えに素直に生き
ます」
- ④ 挨拶を大事にしようと思っ
ています。
- ⑤ 感謝を大事に。寺の近くであり、お
世話になった方々に、感謝の心を持
ちたい。
- ⑥ 仏壇のお参り、食べ物を残さないよ
うに、寺の参拝者と仲良くしてい
きたい。

⑦ 環境問題、人にやさしい農業を心掛
けている。記録など農家のメモを伝
える。

★寺との関係

- 住職のやり易いように手伝いを心掛
ける。そこで、寺にはどの位行くか？
- ・七回〜八回
- ・十二回別院に行くことが多い
- ・百回
- ・法話は女性が多く男性は飲み会が多
い
- ・子どもにどう繋げるかは、キッズサ
ーががよい。

★貧困問題

子ども食堂は、貧困の方どうぞおいで
くださいではなく、どなたでもどうぞの
姿勢が大事です。格差社会は階層が固定
化すると差別が拡大するので、嘆き悲し
む世は続いている現状です。様々な話が
出されました。どれも大切に重要な問題
を含んでいますので、報告します。

合 掌

◎年越し派遣村とは

複数のNPO及び労働組合で組織された
実行委員会が2008年12月31日から2009年1月
5日まで日比谷公園に開設した、一種の避
難所である。

与板みんな食堂オープン

都会も地方も核家族化が進み、「孤食」
という言葉もいつの間にか定着した昨
今、子どもの貧困や食品ロスなど様々な
社会問題、さらに防災・防犯、共助の観
点からも改めて地域の絆を見直し、楽し
く食べながら支え合おうという取り組
みが全国各地で進められております。
長岡市でも、食事の提供を通じて、子
どもや保護者の居場所となり、地域住民
の交流の拠点として「子ども食堂」の取
り組みが広がっています。

与板地域も新潟別院を会場として「与
板みんな食堂」が昨年11月にオープンし
ました。毎月第4金曜日に開催で、参加
費は子ども100円、高校生以上300円です。
ご寄付いただいた食材をボランティア
ア・スタッフの方々に考え調理しますの
で、何が出来るかはお楽しみで
一緒に楽しく食事をしてみませんか！

